



発行者 香川自治会広報委員会
印刷所 (有)スエカネ印刷

茅ヶ崎市の副都心 香川を目指して

香川自治会長 古谷金政

明けましておめでとうございます。本年もよろしくおねがいいたします。



新年を祝う賀詞交換会

旧年中はいろいろな面で自治会にご協力をいただきましてありがとうございました。お陰様で自治会の主な事業、組長の改選、納涼大会、浜降祭、敬老大会、文化祭、自主防災訓練など無事終了いたしました。それぞれに盛り上がり賑わいを見せました。

主張

「初空のひろびろとしてかぎりなし」
桜井ちどり

今年の元旦は、風もなくたいへん暖かで、最高の日和でした。

「正月一日は、まして空のけしきうらうらとめづらしく、霞みこめたるに、世にある人は姿かたち心ごとにつくるひ、君をも

日常生活の

見直しを

わが身をもいはひなどしたる、さまたことにをかし。『枕草子』
昔も今も変わらぬ元旦の風景です。

日本人の暮らしは豊かになり、便利な生活をしていきますが、「見直した方がよい」という人は、国民

つとめとなり踊る姿、また、外側でそれを見守る観客の暖かい眼差し、そんななかから会員相互の理解と信頼と連帯の気持ちが自然に生まれてくるのではないかと思えます。

また、敬老大会も今回は近くの香川小学校の体育館をお借りし、華やかな舞踊の各社中に加え、フォークソング、マジックショー、フォークダンスなどの多彩な出し物をいたしました。

今更だ社会のために活躍下さった方々への敬老の気持ちを大切に、思いやりの溢れる地域づくりを目指していきたいと思えます。

今、香川には80/87才の方が120人、88/98才の方が31人、併せて、151人いらっしゃいます。まもなく昭和生まれの敬老者もでてまいります。多くのお年寄りとの交わりを一層深めなければなりません。

また、学校5日制に伴い、土曜日が休業日となります。子ども達と

初詣で歩行大会

寒川神社へ二百余名が参加

恒例の初詣で歩行大会が、体育振興会の主催で行われました。家族揃っての参加も多く、二百余名の方が、寒川神社にお詣りしました。

意識調査で約九割を占めたそうです。お金さえ出せば何でも欲しい物が手に入り、レジャーを楽しむ人も多くなりました。

まだ十分使える物も捨ててしままい、わずかの労力も惜しみ、奢侈に流れる生活は、長続きするとは思えません。アフリカの飢餓を他山の石として日常生活の見直しを如何。

地域とのつながりも、より一層強いのにしていかねばならないと思えます。

また、香川南雨水排水路は本年度中には完成し、大雨の度に床下浸水家屋がでたり、道路冠水したりした、香川東部地域の問題は、解決することになります。水路の通り道になっている地権者の方々のご協力に感謝いたします。

公共下水道(汚水)は、香川小学校以南の面整備を重点に、工事を進めています。平成7年までに、香川のエリアをカバーするそうです。

今後とも行政に積極的に働きかけ、住みよい香川になるようにしていきたいと思えます。多くの役員の皆様とともに、よりよい自治

諏訪神社では、用意された甘酒に舌鼓をうち、御神酒を飲んだりして午前12時半出発。到着後は自由行動。2時半に参集殿を出発、全員清々しい気分です。



寒川神社へ出発

町内会長・役員 などの抱負

自治会館で、元旦の午前11時から恒例の賀詞交換会が開かれました。

古谷自治会長の挨拶の後、斎藤評議員会議長の発声で乾杯。にぎやかに懇談をして閉会しました。

次に各町内会長さんや役員の方などに、ひとこと今年の抱負を語っていただきました。

第一町内会長 大房三郎

本日に明るくあたたかい新年を迎えました。今年一年も今日からスタートするわけで、こんなに明るい元日は珍しいと思えます。役員一同が健康で、町内会や自治会の皆さんに喜ばれる行事が遂行できますように。とにかく第一番に健康に気をつけてやっていきたいと思えます。よろしくお願いたします。

第二町内会長 畑山雅敏

町内の受持なので、自治会の組織をしっかりとかんがえていきたい。最近第二町内は、住宅などもだいぶ増えてきている。そういういみでも、自治会の組織というものが一番基礎になるのだから、それらの整備をしてゆくように心がけていきたいと思えます。

第三町内会長 亀井幸夫

今年はいよいよ年になるように、みなさんでがんばりましょう。

第四町内会長 石嶋一男

あけましておめでとうございます。今年には穏やかな元旦を迎えて

私としては今後自然を愛した緑の多い町づくり、みなさんが住みよい、うるおいのある町づくりが、んばっていききたい。それには皆さんのご協力が必要です。よろしくお願いたします。

会計委員長 渥美隆次

去年の反省にたつて、今年ももう少しすっきりした形で報告できるようにしたい。

総務委員長 小西敏一

昨年以上によりよい自治会活動のできるように、がんばっていきたいと思えます。

衛生委員長 亀井義雄

今年はいよいよ年です。とにかくゴミの分別収集が始まるので、何とかこれをきちんと成功させるような年にしたいと思っております。

評議員会議長 斎藤兵治

これからは評議員さんたちが香川に対して努力してほしい。広く会議を興し、万機公論に徹するよう、お互いにいろいろな意見をのべあって、相手の意見をよく聞いて、この自治会をまとめていきたい。いただきます。

顧問 亀井隆義

最近茅ヶ崎の知名度は高まっていますね。茅ヶ崎という海岸がすばらしい所、住みよい所と思われています。香川も徐々に積みあげていって、将来海岸にまけないすばらしい所になりたいと思えます。

顧問・市会議員 岡本真雄

約100mの南下水道の予算がつかない。これができると溢水問題はなくなると思えます。しかし新井さんから南の方については、結論がでていません。甘沼香川線との関係もあり、将来の正念場だと思えます。全体的な意志決定がないとできません。今年には溢水はなくなるだろうと期待しています。

三橋勘重郎さんの追善供養を行なう



三橋勘重郎氏の法要

戸に行き直訴しました。その結果、願いは叶えられたけれども、直訴はいけないうとして、奉行は勘重郎さんを捕らえ、香川南にあった東山で死刑にして、財産は没収してしまっただけです。

住民は、これを悲しみ、勘重郎さんの霊を慰めようと、寛政五年三月(一七九三年)、村中総施主となり、石塔を建立。ねんごろに供養しました。

寛政年間に香川の名主で、一身を犠牲にして、村人のために玄瑠寺下の耕地へ水路を作り、不作続きで苦しむ農民の代表として、年貢の軽減を奉行所に嘆願した三橋勘重郎さんは、北町に住んでいました。しかしせっかくの嘆願も聞き届けられなかったため、単身江戸

浄心寺では、毎月九の日に題目会を行なっている。十一月二十九日(日)に檀信徒や関係の方たちが、多数参列、香華を供えて勘重郎さんの追善供養をして、霊をとむらいました。

香川の歴史を伝える遺跡の一つですね。

随想

中村寿子

一、フォークダンス

終戦後、米国の進駐軍によりひろめられたフォーク・ダンス。老若男女が輪になったり、チェーンになったりおどる。丁度盆おどりのように。

ところが、後から後から日本に入ってくる外国のおどり。三千種以上が伝えられているという。それぞれの国が自分の国のおどりを大切にしていって、ちがってつたわのを嫌う。日本でも民踊があるから大事にしたい。

みせるものでなく皆で楽しむものといわれている。外国の舞踊団がくるが、これは舞台でみせる専

門家の集団で、若い時、えらばれ訓練できたえられた人々である。にこやかに楽しそうにおどるが、苦勞も多いときいている。

ルーマニアの国立舞踊団のO・G・がY・W・C・Aにきて、タリナ・デ・アラブを指導したが、このように若い美人がもう現役でないのかと驚いた記憶がある。

ローマ帝国によりほろぼされたユダヤの人々は世界中に散って、そこでユダヤのおどりを集まっておどっていた。イスラエルという国が出来、また、新しい踊りが出来たが、ユダヤのおどりと、イスラエルの踊りは区別されている。オリンピックが行なわれたスペインのカタルーニア州のバルセロナでは、日曜日に広場で、サルダ

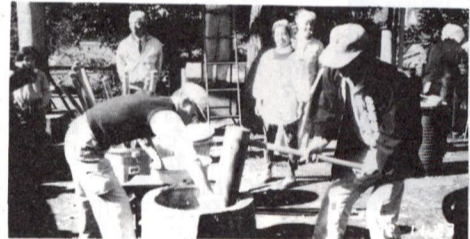
計報 (11月14日〜1月6日)

小合一太郎様	44才	11月14日	池田 純一様	82才	12月1日
第一町内会	12-2組		第三町内会	6組	
渡辺 長治様	60才	11月24日	金光 有葉様	87才	12月3日
第四町内会	10組		第二町内会	31-4組	
吉田 宏様	57才	11月27日	亀井 ヤエ様	74才	12月17日
第一町内会	4-2組		第四町内会	37-1組	
			栗野幸次郎様	82才	12月27日
			第二町内会	28組	

神社で餅つき大会

勤労感謝の日に

十一月二十三日の勤労感謝の日、諏訪神社で午前十時から新嘗祭が行なわれました。



神社で餅つき大会

境内では餅つき大会が行なわれ威勢のよいかけ声に、参拝の人もニコニコ。杵や臼を珍しそうに眺める子供もいて、神社役員の人たちの作ったあんころ餅やからみ餅、もつ煮などに皆舌鼓をうち、「おいしい」と喜んで食べました。

機械でついたお餅とは全然味が違うし、つきたてなので、おいしさ

ーナが踊られているとき。カタルーニアはスペインからいつかは独立したいと、心をあわせておどっているのだそうだ。

世界地図がぬりかえられていく。このおどりは……旧××のおどりというようになる。

二、アラ

十数年前、佐渡に旅行をした時、寿司屋で昼食をした。お吸物がおいしかったので、「これ、何が入っているのですか」「アラです」「アラはアラでも何のアラですか」

みな幸せな楽しい一日を過ごしました。

餅米30kgは、池田博さんの奉納によるもので、皆さん感謝していただきました。

後日テレビで父親のとったアラの魚拓より大きいのを釣りたいという漁師が、海に出たけれど、まだとれない光景をみた。大きな魚である。

広辞林によると、前の方は省略。「体長四〇センチメートルに達しズキに近い種類である。深海に分布し、内湾にすることはない」とある。阿羅のにぎりをたべておけばよかった。

パラオの海

ダイビングを始めて二年余、20kg余の装備での移動は、無重力状態の快感、陸上では見られない風景、珍しい魚などが見られると思ふとそれほど苦にならなません。

一昨年末、一週間ほどダイバーに人気のあるパラオへ行ってきました。

パラオはグアム経由で空路五〜六時間の西大西洋上の赤道北側に位置する人口一万四千人程の小島です。パラオホテルに五泊しましたが日本の古いマンションのようで、室の電話やテレビは「置き物」にすぎず、期待はずれでした。ホテルの一階のスパーへ行くと生活用品は種類、質は日本より劣りますが一応揃いました。パラオの人々は、日本人より色黒で、ずんぐりとした感じの人が多く、分ぎさみで生活している日本人から見ると、動作はとてものんびり、優雅に見えます。

ダイビングは朝七時頃に起床して、八時半頃からスピードボートに乗って、六十分ほど行った所で一日に午前、午後の二回潜りました。ポイントに行く途中に、ゼロ戦が水深五〜六mのところを沈んでいるのが見えたり、ボートと平行してイルカが数匹も泳いでくられたりして感激しました。水深二、三十mのところを数人ずつのグループに分かれて潜るのですが、タスク内の空気は三、四



美しいパラオの海

十分で無くなってしまいます。楽しいか、陸上での時間より短かく感じます。パラオで見られる魚は日本近海の魚に比べて大型で、群れをなしている、アジアなどの回遊魚も見られました。日本ではめったに見られない、ナポレオン、バラクーダなどの魚や、大きなテールサングも多数みられました。

二、三mほどのサメも時々出現し、近づいてくる時もありましたが、日本へ帰ってから、瀬戸内海で潜水夫がサメに食べられたというニュースを聞いた時には、その時の光景を思い出し、ゾッとしました。

食事は、日本人の観光客が多いせいか、日本食に近いものが食べられました。ラーメンを注文したら、インスタントラーメンが出てきたり、店内で足元に飼った犬がウロウロしていた中華料理屋も、今ではなつかしい思い出になっています。

ダイビング以外はこれといってすることの無いところなので、夜はタクシーで十分ほど離れた島内唯一のカラオケ屋へ行ってみると、きを過ごしました。お客はほとんど若い日本人で、店内で聞ける歌は、最近の日本のヒット曲ばかりでしたが、六十才ぐらいのパラオ人が、戦前の日本の流行歌を、日本語で歌っていたのが印象的でした。

あつという間の五日間でしたが、日本で生活しているとあたりまえのように思ってしまう、贅沢でムダの多い生活が異様に思えたり、経済優先しすぎるために、子孫に残さなければならぬ残り少なくなった日本の美しい自然、文化が破壊されつつある……。

美しいパラオの海を見ているとそんなことを強く感じました。

いみ

びん・かんの分別収集始まる

すでに市広報やちらしでご存知と思いますが、本年3月から「びん・かん」と「燃せないごみ」を分けて収集するようになります。目的は、増え続けるごみに対し、ごみを減量化・資源化することにより、最終処分場の延命化と資源の有効利用を図るためです。

新しい方法では、原則として、「びん・かん」：月2回、「燃せないごみ」：月1回、指定日に収集します。収集日程表と袋に貼るステッカーは、2月の広報紙と一緒に配布される予定です。

尚、「びん・かん」収集車は、グレーと赤のツートンカラー車だそう、いつもの収集車とは区別されます。

- ◎「びん・かん」の分け方出し方
- ◎「燃せないごみ」
- ◎「びん・かん」
- ◎収集品目は「ガラスびん・金属かん」です。
- ◎なるべく中の見える袋で出してください。(市から配布予定はありません。)
- ◎びんの破損を防ぐため、びんとかんは同じ袋に入れてください。
- ◎中をからにして洗って出してください。(油かんは洗わない)
- ◎びんは栓を取って出しましょう。
- ◎割れたびんも同じ袋に入れて出してください。
- ◎袋にマジックで「びん・かん」と表示して出してください。(当初はステッカーを貼る)

- ◎販売店等で引き取らないものだけ出してください。
- ◎アルミ缶や生びんは地域の集団資源回収に出してください。
- ◎スプレーかんや小型ガスボンベは必ず穴をあけて出してください。(爆発の危険があります)
- ◎「燃せないごみ」
- ◎ガラス・鏡・せともの・プラスチック製品
- ◎小型の電気製品(扇風機・16インチ以下のテレビ・掃除機等)
- ◎乾電池(透明な袋に入れる)
- ◎金属類(やかんなべ・鉄製品)
- ◎ふとん・ウレタンマットレス
- ◎じゅうたん・カーペット(小さく切って出してください)
- ◎木片・枝木(直径2cm以上・長さ60cm以下)

自治会としては、いすれ組長会議など開きまして、徹底化をはか

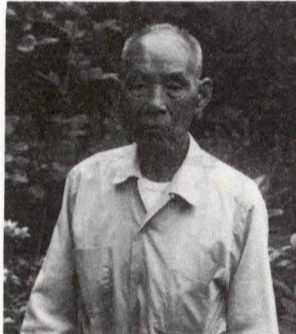
堂庭は人家が多かった 中尾は山が多く池もあった

今回は堂庭にお住居の坪田寅吉さんと、中尾にお住居の熊沢健之助さんのお二人にお話を伺いました。

★坪田寅吉さん 92才

明治34年12月7日生まれ 八人兄弟の次男で、現在も五人御健在とのこと。二十年間、平塚の海軍火薬廠に勤務されたが、自転車を通ったそうです。ポイラーマンだったので夜勤があり交替制だった。午前七時に始まり、午後四時半まで働いて、給料は一円二十銭。堂庭は一番戸数が多く、家がかたまっていた。おぶんちゃん(現在熊沢美倫氏宅)では、タバコや一文菓子も売っていた。隣りが松葉屋で、料理屋さんで繁昌したが、酒や雑貨も売っていた。道祖神の辺に床屋があり、経営者は二、三人かわっ

七面山にはお堂があり、題目行をやり、一日と十五日には方々からお詣りにきた。石段があつて途中に鳥居があり、山頂から茅ヶ崎の海も見えた。山の下方にお比丘さんが住んでいた。くぼりの山(白雲閣などのあった所)、新屋敷の山(現在青少年広場)、藤山(ローンテニスの所)や小さい山があちこちにあり、椎の木に登って実を拾ったり、子供たちのよい遊び場だった。昔は今の中通りが中心道路で、徴兵で入隊する時には、旗のぼりを立てて諏訪神社にお詣りをし、鶴嶺八幡を通って鳥井戸橋に出て茅ヶ崎へ行った。



坪田寅吉さん

芝居好きなきな者ばかりだったから、青年団が中心になって芝居を二晩やるように区長にお願いし、30銭/50銭出して、重箱を持って見に行った。「寺子屋」「義経千本桜」など座間の吉蔵という役者がきて祭礼などで上演した。養蚕をやっていたので、ほとんど桑畑で、豚や牛も飼っていた。さつま芋、小麦、大麦、粟なども作つたが、大麦が多かった。毎日の食事でも七対三で麦の方が多く、おバクを食べた。給料取りはいないし、兄弟が多かつたので早くから奉公に出た。

食べ物は自給自足でまにあつた。魚は南湖から自転車で行商にきたが、鯛が小ザル一杯10円。肉はあまり食へなかつた。豚や牛も飼つた。市場は市役所の西方にあつた。自転車で行ったが、高田の新道ができて楽になった。一里塚の脇まで田圃だったが、砂道ができた時は大騒ぎだった。砂

標準的なものとされている。正月の初の子の日に、野山に出て小松を採り、若菜を摘んであつものにして食べた遊びに始まるという。なぜ正月七日になったのかは不明。日本では醍醐天皇の延喜十一年(九一一年)正月七日に「七種の若草を供す」と「公事根源」に出ている。この頃すでに年々行なわれていたようだ。室町時代には年中行事、江戸時代には五節句の一つになっていた。

香川と甘沼で構成されている第十六分団が、成績優秀と認められ一月七日の出初式で、市の消防長から表彰されました。無線、器具の整備、予防、機関、分団長会議出席など、総合判定の結果、二位の榮譽を得ました。おめでとうございます。日頃のご苦労に対して感謝しています。

物知りコーナー

七草がゆで災厄よけ

昔から正月七日には七草がゆを食べる習慣がある。七草とは、せり、なずな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな、すずしろが子守り奉公や百姓へ奉公に行つたりやまく(熊沢醸造・熊沢市朗氏宅)にもいた。味噌正油を造る仕事をしたが、田畑の仕事も手伝いさんさん働いた。

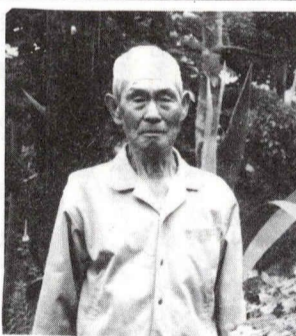
★熊沢健之助さん 91才

明治35年12月16日生まれ

七人兄弟だったが今は二人だけになってしまった。中尾は三軒しかなく、隣りは隅屋(三橋角蔵氏宅)やお宮になってしまふ。芋畑、桑畑、野菜や麦畑ばかり。妻が蚕が上手で熱心で養蚕組合で一番だった。岡本源治郎さんが組合長で、蚕が一番多かつたのは、古西(新倉栄一氏宅)だった。同級生は熊沢象次さんだけになつてしまった。

豆箱は今駐車場になっているけれども、山で傍に池があり遊水にした。熊沢寿雄さんの裏に堀があり、大正の頃まで鰻がとれた。昔、中尾の長者という人がいたそうだが、場所はどこか分らない。毎日釣りをしていたとか。

三堀薬局辺に富士塚があり坂だった。富士山の噴火の時の火山灰をかき集めたもので、二尺位掘ると黒い砂が出てきた。昔は物が安かつたからお金の使い方があつた。お金を稼ぐのもたいへんだつたが、隣り近所も仲がよく、おふるも順番にもらい湯をした。もしきをどんどん燃せるし入浴前後にはお茶をのみながら話をして楽しかつた。今のうちにせち辛くなるのんびりしてよかつた。90年は「もうこんなになつてしまったのか」という気持。関東大震災と、戦争が一番の思い出だそう。



熊沢健之助さん

軽くてよかつた。一月に一足下駄をすりへらした。苦勞して通つたし、何くそという意地があつたので、香川の者は皆がんばり成績がよく、本校でも鼻が高かつた。大原まで二間の道があり、中尾から大山街道まで高い山だった。淋しくて気味がわるくて通れなかつた。玄圃寺も山の中にあつて、草ぶきの寺だったが、大正十三年歳末に火事で焼失したけれども、現在はりっぱなお寺になった。

さーくる紹介

考古学習グループ



長福寺資料室見学の皆さん

私たちが住んでいる香川は、その昔は海の底だったようです。その後、海が退いて、人々が住み、様々な足跡を残しています。気候も温暖で、海や山が大きな恵みをもたらしてくれたことでしょう。また、香川の南側を通っている大山街道は、かなりのにぎわいをみせていたようです。

香川は、歴史的にみてもたいへん興味深いところですね。

そんな香川のことを知りたい、茅ヶ崎

藤村 球子

初春の旅寝をさます百合鷗

初旅の宿は水辺であったのであろう。その声で目が覚める程百合鷗の啼き声は大きくはないが、姿が美しいので初旅の寝覚めにふさわしい。

房総の海魚がしたり各苗

お供えは一緒に飾る品々と大きさが釣合ってこそめでたさも一際だが、橙が大きすぎて甚だ不釣合な鏡餅が滑稽に見える。これしかない橙なら仕方あるまい。

初明り夫も目覚めてあたりけり

療養の母の明るき初電話

病気で籠っている母から正月

初明り夫も目覚めてあたりけり

療養の母の明るき初電話

病気で籠っている母から正月

初明り夫も目覚めてあたりけり

療養の母の明るき初電話

病気で籠っている母から正月

病気で籠っている母から正月

正月の行事やしきたり、遊びは数えあげたら限りなくありますが、その一つに左義長があります。一各とんど焼と言われ、親しまれている行事の一つで、知らない人は無いでしょう。

小正月の火祭行事で、今は子供や若者の行事になっており、その土地の集団行事の一つで、古くは三述杖、三毬打とも書きました。

正月の左義長

どんど焼

毬杖とは祝いの棒の一つで、本来は三つの竹又は木を結んで三脚にしてたて、大焚火の中心になる柱は山から伐ってきた栗や檜で、これに松飾りや、注連飾りを結わえて焼き、この煙ののって正月は帰ると言われています。とんど・ど

だあと、その小屋を焼くということとです。今では正月の注連飾りや、松飾りを焼くためと思って、飾り焚・飾りあげ・飾りはやしなどとも言われ、又吉書をどんどの火に燃やし、その燃えさしが高く揚がるのを手があがるとして、喜ぶふうもよく、吉書揚とも言われています。この火は神聖視され、若火とも言われて、この火で餅や団子

を焼いて食べ、災厄を払う呪いとして焼きます。又どんどの火で豆を煮て味噌を作る地方もあり、みそどんどとも言われています。

陽が昇るが、初日の出を年の区切として、あらためて迎える習慣は大切にしたい行事だ。くり返す薫の笛聞く初詣

長島 久江

去年今年巫子となる娘のアルバイト

喪籠りの日記に余白筆はじめ

初髪を小さく束ね妊れる

初旅の薬味のみどりとろろ汁

初詣願ひごとのみ増えにけり

我が眼健やかなりと初鏡

借老となり十二月躊躇わず

北吹ける浜の女の語気荒し

父と子の切火を受けて出初式

連絡先 長島久江 ☎65二二五

連絡先 長島久江 ☎65二二五

香川でも十四日夕方より、左記の場所で行われました。日本の伝統ある正月の行事「左義長」に参加してみるのは、趣深いものがあります。

原町 山口屋近くの空地(十五日実施)

北町 古宮工務店先の田の中

堂庭 浄心寺の前

殿内 第一青少年広場

殿内 第一青少年広場

殿内 第一青少年広場

殿内 第一青少年広場

殿内 第一青少年広場

殿内 第一青少年広場

殿内 第一青少年広場

殿内 第一青少年広場

殿内 第一青少年広場

昭和十六年一月十四日島崎藤村が、この左義長を見に大磯を訪れ、此の地の自然の美しさに魅せられ、此処に住みつき、一生を終ったと伝えられています。

香川でも十四日夕方より、左記の場所で行われました。日本の伝統ある正月の行事「左義長」に参加してみるのは、趣深いものがあります。

原町 山口屋近くの空地(十五日実施)

北町 古宮工務店先の田の中

堂庭 浄心寺の前

殿内 第一青少年広場

殿内 第一青少年広場

殿内 第一青少年広場

殿内 第一青少年広場

殿内 第一青少年広場

殿内 第一青少年広場

殿内 第一青少年広場

殿内 第一青少年広場

香川でも十四日夕方より、左記の場所で行われました。日本の伝統ある正月の行事「左義長」に参加してみるのは、趣深いものがあります。

原町 山口屋近くの空地(十五日実施)

北町 古宮工務店先の田の中

堂庭 浄心寺の前

殿内 第一青少年広場

殿内 第一青少年広場

殿内 第一青少年広場

殿内 第一青少年広場

殿内 第一青少年広場

殿内 第一青少年広場

殿内 第一青少年広場

殿内 第一青少年広場

殿内 第一青少年広場

図書館 だより

新刊書の紹介

- ◎海峽 伊集院 静
- ◎スシとニンジャ 清水 義範
- ◎ほととぎすを 待ちながら 田辺 聖子
- ◎白い屋根の家 藤堂志津子
- ◎ひょうたんから愛 内海 桂子
- ◎英国こんなどき 旅日記 江國 滋
- ◎はじめての庭づくり松坂 守利
- ◎手しおにかけた 私の料理 辰己 芳子
- ◎峠の旧街道 テクテク歩き 山本 偲

俳句 茅花会

平塚司郎選

早々電話があった。暮れのせわしさにまぎれてうっかりしていたが、電話を通しての母の声は明るく弾んでいて、大分快方に向かっているようだ。この分なら心配なさそうだと安堵する。

藤井 謙昌

濱沿ひの焚火を囲み初日待つ
湘南の海岸は何処も広い砂浜
が続いていて、初日の出を迎えるのに、この句のような風景がどこでも見られる。毎日同じ太

どんど焼の風景

香川でも十四日夕方より、左記の場所で行われました。日本の伝統ある正月の行事「左義長」に参加してみるのは、趣深いものがあります。

原町 山口屋近くの空地(十五日実施)

北町 古宮工務店先の田の中

堂庭 浄心寺の前

殿内 第一青少年広場

どんど焼

だあと、その小屋を焼くということとです。今では正月の注連飾りや、松飾りを焼くためと思って、飾り焚・飾りあげ・飾りはやしなどとも言われ、又吉書をどんどの火に燃やし、その燃えさしが高く揚がるのを手があがるとして、喜ぶふうもよく、吉書揚とも言われています。この火は神聖視され、若火とも言われて、この火で餅や団子

室町時代になって一般庶民の生活にもこの行事が浸透してきて、現在に至っているようです。

この近くでは大磯海岸の左義長が有名でありましょう。竹を芯にして松を周りに結わえ、その下に町内の皆さんが持って来た注連飾りや松飾り、書初めなどを積み。そういうのが九つも出来て、十四日の午後七時頃から、一斉に燃え始め夜空を焦がすのですから、想像するだけでも勇壮なものです。八時頃が最も燃えさかり、人々がその火を囲み餅や団子を焼いて食べ、無病息災を願ひ祈ります。

昭和十六年一月十四日島崎藤村が、この左義長を見に大磯を訪れ、此の地の自然の美しさに魅せられ、此処に住みつき、一生を終ったと伝えられています。